



【連載】三田未来予想図 —明日への「ギフト」—

私たちの「今」は「明日」への贈り物。

今年、三田市は市制施行 60 周年。この機会に、皆さんとともに「未来」へつなぐ三田市のまちづくりについて考えるため、現在の課題をテーマに、全 8 回で連載します。

連載①

— みんなで考えよう！ —

どうする！ 未来の公共施設

なぜ見直しが必要なの？

公共施設ってどんなものがあるの？

市が保有する主な公共施設は、現在 125 施設あります。子育て支援施設が 39 力所で最も多く、次いで学校教育施設が 30 力所。この 2 分類で過半数を占めます。

分類	数	主な施設
① 学校教育系施設	30	小学校、中学校、給食センター
② 子育て支援施設	39	幼稚園、保育所、放課後児童クラブ、多世代交流館など
③ ①②以外の共同利用施設・ホール等	29	図書館、市民センター、総合文化センター、駒ヶ谷運動公園体育館、ガラス工芸館、総合福祉保健センターなど
④ 市営住宅	11	西山団地、南が丘団地など
⑤ 行政系施設	4	市役所、消防署消防庁舎
⑥ その他	12	市民病院、クリーンセンター、新三田駅前駐輪・駐車場、聖苑など

公共施設に何が起きているの？

今、公共施設を取り巻く環境が大きく変化しています。

一斉老朽化

昭和 50 年代、ニュータウン開発などで集中的に施設を整備しました。

改修時期が集中

平成 28 年からの 10 年間で保有施設の約 51.3% が大規模改修時期の目安とされる築 30 年を一斉に超えます。現在改修時期を迎えている施設と合わせると 66% に。安全性の確保等のため、改修や建て替えなどの工事を先延ばしにはできません。

人口減少・少子高齢化

市の将来人口は、今後緩やかな減少に転じ、急激な高齢化が予測されます。2020 年に

現在、全国的に公共施設の「老朽化」が進んでいます。三田市も例外ではありません。今後も安全で魅力ある施設を未来につないでいくため、時代や市民のニーズに合った施設の在り方について、市民の皆さんとともに考える取り組みが、「今」求められています。問い合わせ 財政課 (559・5086 FAX 563・1366)

は 4 人に 1 人が 65 歳以上となることが見込まれ、人口に占める年齢層の割合(バランス)が大きく変化します。(人口構造の変化)

ニーズの変化

現在の施設の多くは、北摂三田ニュータウン開発に伴う人口急増期のまちの発展と共に整備してきました。社会の移り変わりや人口構造が変わることで、施設に求める市民のニーズや優先順位も変化しています。

財政バランスの悪化

今後、生産年齢(15歳以上 65 歳未満)人口が減り、税収の減収が見込まれる一方、老年(65 歳以上)人口の増加等で、医療費など社会保障費の増加が予測されます。公共施設の維持費等に使える予算は減少すると想定されています。

今の施設をこのまま維持できないの？

維持するには、多くの予算が必要となります。現在の保有施設を、同じ規模で改修または建て替えようとする年平均で約 29 億円(※1)の費用が見込まれます。市税収入が年間 175.1 億円(※2)であることを例にとると、その約 6 分の 1 を維持費用に使うこととなります。今後の財政状況の見直しなどを踏まえると、このまま全ての施設を維持することは非常に難しい状況です。

*1: 総務省が公表する公共施設更新費用試算ソフトでの試算結果 *2: 平成 28 年度決算

2

未来に向けて今から何ができる？

進めていきます！公共施設マネジメント

公共施設マネジメントとは、限られた予算の範囲内で施設を維持できるように、施設の規模や維持管理方法などを見直していく取り組みです。今だけでなく、将来にわたり需要が高い施設の優先順位を選定するために、「施設の再編と長寿命化」「運営の効率化」を主な柱として、個々の施設の在り方ではなく、市全体に必要な施設やその機能を考えていくこ

例えば・・・

同じような機能(用途)を持った別々の施設を一カ所に集めたらどうかしら。

施設数が減ることで維持費が減るだけでなく、同じ場所関係するサービスと同時に受けられて便利になるね！

他にも、施設を民間や地域主体の施設へと移管すれば、よりみんなの意見に沿った施設になるんじゃないかしら。

取り組み次第で、もっと便利になったり、必要な機能を残したまま施設数を見直すことができるんだね。

施設そのものではなく、必要な「機能」を残すことが大切なんだね！

でも、人それぞれ必要な機能は違うから、何を残すか選ぶのは難しいね。

そうね。どれも尊重されるべきね。だからこそ、考え方が大事になるわ。例えば安全・安心を守る施設から残していくなど、「優先順位」を考えて見直さなきゃ！

見直しとは別に、施設をこまめにメンテナンスしていくことも大切なんじゃないかしら。

3

みんなで考えよう！

市では、「公共施設マネジメント」の基本方針(案)を昨年 10 月に公表しました。市民・まちの共有財産である公共施設。市民の皆さんと一緒に考え、実行していくことが重要と考えています。ぜひ皆さんのご意見をお聞かせください！

パブリックコメント(意見募集)
1月5日～10月1日

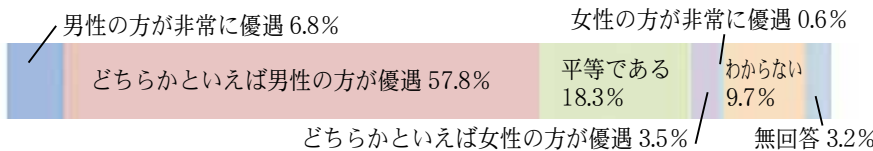
地域版
タウンミーティング
5月から実施 ※詳細は決定次第お知らせ

男女ともに輝く ～ 29 年度男女共同参画市民意識調査結果より～

29 年 7 月に、男女共同参画市民意識調査の結果をまとめました。この調査では、男女平等に関する意識をはじめ、男女間の家庭や地域での役割分担、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)や職場などでの女性の活躍、DV(ドメスティック・バイオレンス)に関すること、市の施策についてなど全 35 問のアンケートを市内に在住する 18 歳以上の男女 2 千人に郵送し、およそ 42% にあたる 835 人から回答をいただきました。※回答の小数点第 2 位以下は切り捨て

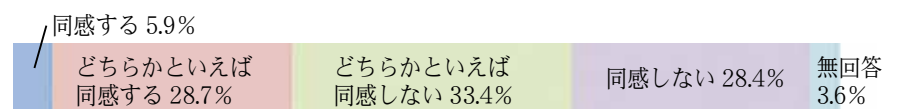
◆男女の地位が平等 18.3%

男女平等に関する意識について「社会全体でみて男女の地位は平等になっていると思いますか」という問いに対して、「平等」と答えた人は全体の 2 割弱にとどまり、「男性の方が優遇されている(6.8%)」「どちらかと言えば男性の方が優遇されている(57.8%)」と答えた人の合計割合は 64.6% にのびました。



◆男性は仕事、女性は家庭 34.6%

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方に同感する人の割合はおよそ 3 分の 1 にとどまり、「同感しない(28.4%)」「どちらかといえば同感しない(33.4%)」を合わせると 61.8% の人が今の時代にこのような考え方はそぐわないと考えていることがわかります。



◆男女共同参画社会を推進するために

市では、これらの調査結果をもとに、これからの男女共同参画社会を考える第 5 次男女共同参画計画を策定しています。この計画に、さらに広く市民の皆さんの意見を反映させるため、現在、計画案に対するパブリック・コメント(市民意見)を募集しています。計画案には調査結果の詳細や今後 5 年間の男女共同参画施策案を記載しており、市ホームページやまちづくり協働センター、各市民センターで閲覧できます。ぜひ、ご意見をお寄せください。

問い合わせ=まちづくり協働センター男女共同参画担当(563-8000 FAX 563-8001)